



視点を広げると、知りたいことがあふれてきます

校長 野田 恵美

第20回アジア競技大会が愛知県内の各地で9月19日から始まりました。アジアパラ競技大会も10月18日から24日に行われます。現地に行って観戦した人（観戦する予定の人）もみえるでしょうし、放送でみる方もあると思います。競技そのものの攻防を見るのも、日本の選手やお気に入りの選手の活躍を見て、わくわくどきどきするのも楽しいですね。

さて、ここで少し想像してみましょう。オリンピックを始め、こうした大きなイベントが行われている場合、実際に競技をする選手以外に裏で支えている人はどれくらいいるのでしょうか。それはどんな仕事なのでしょう。監督、コーチ、選手を支えるトレーナー、選手村で食事を作る人、競技の審判員、進行を行う人、会場を整備する人、観客が安全に観戦できるようにするスタッフ、チケットを販売する人、ポスターやグッズをデザインする人、競技結果を伝えるアナウンサー、新聞やインターネットの記事にする記者…、様々な仕事内容で多くの人が関わっています。選手が安心して競技ができるように、観客が安心して応援ができるように、関わる人みんなが、競技大会をよりよいものにするために考え、工夫しているのです。目に見えない多くの人が1つの大会を支えています。また、多くの人の思いがそれぞれにあると思います。競技自体を楽しむのはもちろんのこと、少しだけ視点を広げて、どんな人が携わっているのか、どんな思いがのせられているか、そんなことを子供たちと考えるのはいかがでしょう。

私は、こうしたイベントがあると、ポスターのデザインにこめられた思いとか、使われた色などが気になります。調べてみると、アジア大会のエンブレムに使われている色にも、「情熱レッド」「カキツバタパープル」「金しゃちゴールド」なんてオリジナルの名前がついているのです。それだけでも、「えっ？どうしてそんな名前をつけたの？名古屋だから金しゃちなのか？」などと、次の興味がわいてきます。さらに調べてみると、そのような名前をつけた理由もちゃんとありましたし、色をデザインに生かすときにどんな思いをのせたのか、などもわかりました。さらに、競技の様子を見てみると、大会を支えるボランティアスタッフが、自分が思っていたより多くいることがわかりました。「ボランティアはどんな人がやっているのだろう」「どんな仕事があるのだろう」など、新たに知りたい気持ちがわいてきます。

どんな種目があるの？や、どんなルールなの？参加しているアジアの国にはどこにあるの？など、自分の興味のあることでよいのです。小さな「どうして？」がきっかけとなり、新しい世界につながるかもしれません。知りたいな、調べてみたいな、という気持ちは、学びを進める上で大切な土台となるものです。32年ぶりとなる日本開催のこの大会をいろいろな視点で楽しんでみませんか。



◆ 緊急時の登校についてお願い

秋は台風が多く発生する季節です。また、昨今は気象の変化が激しく、急に大雨が降るなど、子供たちの登校が心配な場合があります。予測できる場合は、可能な限りH&S配信などでお知らせしますが、状況によっては、連絡が間に合わなかったり、通学班で1人だけになってしまう等の想定外のことが起こったりします。そうした場合は近くの班と一緒に登校したり、おうちの方で対応していただいたり、ということになるかと思いますが、コロナやインフルエンザによる学級閉鎖などで、急に班員の欠席が増える場合も同様に、安全な登校を優先していただきますよう、お願いいたします。

◆ 冠水・危険箇所があったら

9月の半ばに特別警報レベル4・5が出されました。線状降水帯の怖さを実感しました。校内では東門のあたりが乗用車のタイヤ半分位まで冠水し、校区の中でも一部の道路が冠水していました。翌日巡回した教職員や子供たちから、危険箇所の声を集めましたが、校区（通学路）の中で、冠水して危険だった、という場所がありましたら、学校までお知らせください。

